産業常任委員会 管内視察報告

産業常任委員会で6月8日に実施した管内視察について委員の感想を交え報告します。

①飛騨古川まつり会館

施設状況と問題点(トイレ・スロープ・映像ホール構造・レストラン等)を視察

- 如何にして入館者を増やすか。営業活動を強化し営業、宣伝活動を積極的に実施することが必要である。(SNSなどの活用、旅行会社への売り込みなど)

②飛騨市クリーンセンター

飛騨市クリーンセンター

- 火災の想定原因に対する対策は完了していると思えるが、真の原因が不明である現状では、計器、機器の日常点検、定期点検を確実に実施することが重要と考える。特に圧力関係の計器、逃し弁、調整弁は今回の対策のキーポイントであり点検は必須である。
- 火災原因については、管理者に落ち度がなく、瑕疵期間内のため、工事請負者に対し損害賠償を含め責任を明確にして欲しい。スピード感を持って早い解決を望む。

③河合舌刈大作戦

河合町有家の地域づくり放牧事業と農地集約整備事業

河合町有家　放牧予定地

- 中山間地域での耕作放棄地の有効な利用方策であり適用できる地域が他にも多くあるように思う。
- 面白い着想で、耕作放牧を防ぎ、地元の特産の肉用牛経営の改善に効果があると感じた。今後のさらなる展開を支援していきたい。
- 飼料資源の生産基盤を確立するために大いに推進して欲しい。中山間の問題を「牛の力」を借りて解決したモデルケースにして欲しい。

④みずほクリーンセンター

施設運用の状況を視察

- 飛騨市の今後長期間の人口推移を考慮した装置・機器の更新、建物の補修を行う計画を立てて過剰投資にならない配慮が必要と考える。
- 使用開始平成15年4月と施設は老朽化しているが重要な施設、今後どうやって維持管理していくかが課題。

⑤国道360号種蔵打保バイパス(仮称)3号トンネル

- 雨量規制区間の解消、災害時の緊急輸送路、隘路の解消による安全通行の確保が目的の工事で早急な完成を望む。

⑥レールマウンテンバイク 渓谷コース検討箇所

二ツ屋より下流の橋梁、トンネルを徒歩で確認

- 安全面の説明がありましたが、どの様にしたら安全を確保し、早期に提供できるかという取り組みを望む。
- 落石の問題、レールマウンテンバイクからの乗降の問題点もあり、十分な検討、安全対策が必要。
- 落石の危険箇所をクリアすれば、第二のコースとして使用可能。駐車場の完備も必要。
- 緑豊かで、高原川の緑や青のコントラスト、石や岩等の自然配置となっており、都会人、外国人が好む景観が多い。

レールマウンテンバイク渓谷コース候補地

⑦市道釜崎朝浦線 アーチカルバート工法

- 釜崎から朝浦(神岡小学校付近)までの道路であるが、今後延伸して国道41号に接続すると、より利用価値があると考える。
- アーチカルバート工法の利便性を確認。

⑧流葉グラウンド整備予定地

- 二面整備で利用範囲が大幅に拡充されることが期待され早期完成を望む。
- 滞在型スポーツ宿泊客の促進により、地元に活力を演出する意味で大切。

⑨FabCafe Hida

- 飛騨の木を利用した製品の開発などの活動をされているが、現状では会社が大きく成長する要素が見えない。
- 十分な可能性を秘めている。飛騨市が上手く活用していくことが重要。
- 飛騨の森林資源の活用、飛騨の匠たちとの連携や交流、新たなビジネスを産むチャンスとして欲しい。

(委員長　洞口和彦)

総務常任委員会 管内視察報告

総務常任委員会では6月10日に市内7ヶ所の管内視察調査を行いました。そこで感じた事などについて報告します。

①和光園（養護老人ホーム）

建設後33年が経過し相応の老朽が見られるため、隣接の土地を購入し定員50名で完全個室の新築計画の説明を受けました。新築予定場所は、敷地面積の関係で4階建ての構想ですが、介護者を含めた見守りが大変ではないか再考を望む所である。原案で進むのなら市単独による職員増員の必要性ありと思われます。

また、今ある園を改修し、男女別障害者グループホームや生活困窮者用の住居を整備、24時間定期巡回型の訪問看護・訪問介護ステーションを併設予定。改修にも、施設の老朽化を考えると相当の費用がかかると予想されます。

入居時は健康であっても、年を重ねる毎に介護が必要な入所者が増えており、職員と事業者（吉城福祉会）の負担が増えているように感じられました。八畳間にベッドが2台置いてある様子をみて、とても十分には生活できる空間とは思えなかった。また、職員の話からも、新しい施設の必要性を感じ、その際には現場職員の話をしっかり聞いて進めていくべきと感じました。

和光園で職員から説明を聞く

②古川消防署

消防救助技術東海地区指導会に向け、飛騨市を代表して出場する隊員の救助訓練を視察した。訓練は、地上7mに張られた20mロープを渡り救助するロープブリッジ救出や15mの高さを登るロープ応用登はんなどの種目を見学。いざという時のために日頃から各種訓練に励まれ、市民の安心安全な生活を守るためのご尽力に感謝したい。

出場隊員の訓練の様子

③まごの手（サービス付き高齢者向け住宅）

要支援相当から要介護度が軽く自立度の高い高齢者向け住宅で、三部に分かれた通所型サービスも実施しており、誰でも気軽に立ち寄れる施設を目指して今年4月に開所。居住空間も広く自由度が高いうえに24時間365日サポート体制が整っており一人暮らしの方にとっては安心して生活できる所であると感じた。

④神岡中学校

神岡中学校のスーパー少人数指導授業の様子を見学して、生徒も先生もとても生き生きと、楽しく学んでいる雰囲気を感じました。学力も向上しているとのことで、これまでの取り組みを高く評価したいと思う。今後適切な教員配置や時間配分などを検討し市内中学校全体で学力向上を目指して欲しいと思う。

⑤神岡給食センター

子供の食育を考え薄味で、限られた予算で工夫された給食を試食し、素材の持つ本来の旨さを引き出してあり、とてもおいしく頂いた。栄養士の方から、給食費のアップの件で苦慮していると聞いた。

神岡給食センター試食

⑥レールマウンテンバイク 渓谷コース検討区間

レールマウンテンバイク事業を地域活性化の一つとして大いに応援したいと思う。このルートを営業するためには、どのように運営管理していくのか、採算性はあるのかを市も議会もよく検討する必要がある。

⑦旧あさぎり保育所（病児・病後児保育事業）

保護者の方が安心して子育てができる環境を整えてあり、手厚い施策であると感じた。市内の保育園、広域入所による幼児が対象である。こういった施設が整備され、家族が安心して勤めることができる環境づくりには賛成である。あさぎりでは、対象者が少なくても収入があり、赤字にはならないと伺ったので安心した。この施設の状況をみながら、今後増設するかどうか判断していくべきと感じた。

（副委員長　澤史朗）